

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート〔 事後評価 〕

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	02	0407	商店街魅力創出事業

事業期間	☒ 単年度繰返	☐ 期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》

商店街の形成支援

《事業開始の背景》

中心市街地の賑わいづくりの促進と魅力ある商店街の形成を図るために実施している。

《事業概要》

- 公共駐車場確保対策
大迫町の商店街の駐車場確保
- 市民ふれあい広場運営
一日市商店街・大迫町商店街・東和町商店街の利便施設の設置
- 中心市街地新規出店者経営支援
中心市街地への新規出店者の定着
- 商店街共同施設補修支援
商店街共同施設の補修事業に対する補助

市民参画の有無〔対象外〕

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

	項 目	単位	区分	24 年度(実績)	25 年度(見込)	26 年度(計画)
①	新規出店者数	店	目標	5	5	5
			実績	4	4	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

分 野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
しごと	商工観光部	商工労政課	伊藤直樹	389

	25 年度	当初(現計)	補 正	25 年度	26 年度
事業費	7,708				
財源内訳					
国県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	7,708				

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

① 公共駐車場確保対策 1,731千円

需用費35,520円、業務委託料183,320円、土地借上料1,512,000円

駐車場箇所	駐車場住所	区画数	1区画月額単価	賃借料
仲町	大迫町大迫3-214-1	20	3千円	720千円
上町	大迫町外川目34-3-7	20	2千円	480千円
川原町	大迫町大迫3-108-7	13	2千円	312千円

② 市民ふれあい広場 4,050千円

- ・一日市商店街 1,841,568円(燃料18,062、光熱163,006、委託1,060,500、借上料600,000)
- ・石鳥谷町商店街 緊急雇用創出事業(小さな百貨店運営業務3,812)で実施
- ・大迫町商店街 737,670円(燃料24,348、光熱42,552、委託料490,770、借上180,000)
- ・東和町商店街 1,471,049円(燃料19,049、委託料1,092,000、借上360,000)

③ 中心市街地新規出店者経営支援事業 1,750千円

新規出店者の定着による中心市街地の賑わいづくりを促進するため、未利用店舗を活用して行う事業に対して店舗借上げ及び改装に係る経費を補助する。

報償費 179,000円(審査委員会75,000円・経営指導104,000円)

補助金 1,571,000円(H24継続分 175,000円・H25新規分 1,396,000円)

- ・補助率等 対象経費の2分の1以内(限度額600千円 ※借上料は月額50千円)
- ・対象地域

花巻地域	四日町1～2丁目、一日市、坂本町、大通り1～2丁目、末広町、花城町、吹張町、鍛冶町、上町、御田屋町、藤沢町、二枚橋大通り1～2丁目、二枚橋南1丁目、二枚橋北1丁目
大迫地域	大迫第2～4、12～13地割
石鳥谷地域	好地第6～8、16～17地割、新堀第25、29～30、40、44、46地割、南寺林第5地割
東和地域	安俵3、6区、土沢5～8区

④ 商店街共同施設補修等支援 177千円

吹張商店街振興組合 アーケード補修事業への補助

商店街魅力創出事業(総括表)

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	02	0407	商店街魅力創出事業

総合計画	政策	地域資源の連携強化で産業振興のまちづくり	施策	賑わいのある商店街の再生
	1		1-4	
目的	商店街の形成支援			
対象	商店街利用者、新規出店者、商店街組合			
意図	便利で魅力ある商店街が作られる。			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○公共駐車場確保対策 大迫町の商店街の駐車場確保 ○市民ふれあい広場運営 一日市商店街・大迫町商店街・東和町商店街の利便施設の設置 ○中心市街地新規出店者経営支援 中心市街地への新規出店者の定着 ○商店街共同施設補修支援 商店街共同施設の補修事業に対する補助	
市民参画の有無	[対象外]
市民協働の形態	☐ 共催 ☐ 実行委員会・協議会 ☐ 事業協力・協定 ☐ 後援・協賛 ☒ 補助・助成 ☒ 委託

	活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(計画)
①	出店相談件数	件	計画	5	5	5
			実績	6	10	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
	成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(計画)
①	新規出店者数	店	目標	5	5	5
			実績	4	4	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

要因分析	達成度	☐ 目標値より高い ☐ 概ね目標値どおり ☒ 目標値より低い
目標未達であるが、年度末に相談のあった1件は中小企業庁の創業補助金の採択を受け入居が決まっており、全体的に出店意欲は横ばいの印象。空き店舗物件自体の老朽化が進む一方、空き店舗オーナーが修理、改装等に積極的ではなく、入居に至らないケースや、入居間もなく退去せざるを得なかったケースが散見された。空き店舗オーナーの「ヤル気」が問題の本質であることは明か。		

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

商店街通行量や商店街加盟店舗数は明らかに減少傾向にあり、今後の展望も厳しい。
魅力ある商店街形成には、都市構造の問題も大きく関係しているというのが最近の捉え方。

目的妥当性	公共関与の妥当性 ☐ 妥当である ☒ 見直し余地がある ☐ 妥当でない	行政、商店街それぞれに役割があり、どうあるべきか、なお議論を要すると考える。本質的には、商店街、店舗等の自助努力や空き店舗オーナーの経営努力が伴わなければ課題解決にはつながらない。
有効性	成果の向上余地 ☒ 向上余地がある ☐ 向上余地がない	商店街等との関係構築により、より地域に根ざいた店舗として長く営業してもらう方向に制度改正予定。
効率性	事業費・人件費の削減余地 ☒ 事業費の削減余地がある ☒ 人件費の削減余地がある ☐ どちらも削減余地がない	単純な補助額低下は、出店意欲を削ぐおそれがある。 ふれあい広場は委託費のうちの人件費を削減予定。 公共駐車場は、市が保有する未利用地の活用を検討中。
公平性	受益と負担の適正化余地 ☐ 受益機会の見直し余地がある ☐ 費用負担の見直し余地がある ☒ 適正である	出店エリアの限定はあるものの中心市街地に出店しようとする方を対象としており、受益機会は適正である。

《総合評価》…上記評価結果の総括

○公共であれ民間であれ優良かつ十分な駐車スペース確保が誘客や利便性向上に大きく資することは明白。手法については今後も検討を行うが、特に週末イベント等で活発に使用されている。（平日利用は少ない）
○市民ふれあい広場は、人件費部分については原則ボランティアで行う方向で調整済。商店街の立ち寄り場所として、また商店街イベントの誘客拠点として地元ニーズに即した活用が図られている。
○新規出店者経営支援事業は、H16以降、経営指導や事業継続性審査の視点を加えてからの店舗継続率が上がった。少ないながらも確実に新規出店者を中心市街地に誘導する効果がある。今後は、新規出店者が店舗継続し、かつ地元に着定して街の賑わいづくりに協力してもらうスキームへ移行する。